

“Dance with Heart”

We are burning with enthusiasm
in creating national art for the new era.

The Kikunokai Dance Troupe

Representative: Satoshi Hata

日本のおどり

発行: 舞踊集団 菊の会

〒161-0031
東京都新宿区西落合 2-21-23
03-5983-6001 (代表)

菊の会 京都八瀬研修所

〒601-1254
京都市左京区八瀬野瀬町 10
075-712-8701 (代表)

http://www.kikunokai.co.jp

Dancing from the heart



時下益々御清祥の事
とお慶び申し上げます。
平成から新たな年
号に変わる本年は
菊の会にとりましても
変革の年と位置づけ
舞踊団としての体制を
見直し、次なる目標を
あります創立50周年へ
向けてスタートを切っ
てまいりたいと存じ
ます。

皆様におかれまし
ては変わらぬご指導
ご鞭撻を賜りますよ
う何卒宜しくお願い
申し上げます。

日中平和友好条約40周年の記念すべき年に、上海歌劇院舞劇団は公益財団法人日中友好会館からの招聘により、ダンス公演出演のため来日しました。日本滞在中、ご縁があり「舞踊集団菊の会」さまとの舞踊交流会が実現し、当団員16名で菊の会スタジオを訪問しました。スタジオでは落語(三遊亭らっ好・落語家)とその落語を元に新しく創作された狂言舞踊や、日本舞踊を生まれて初めて鑑賞しました。落語では、日本語が全く分からない私たちのために、中国語解説をご用意いただき大変感動しました。その新作の狂言舞踊では出演者の絶妙な表現力により、言葉の壁を超えてストーリーを理解でき、大変興味深かったです。また日本舞踊では踊り手一人一人が演じる芸術的でユーモア溢れる豊かな表現に心が和み、大変貴重な経験となりました。

私たちはよく芸術とは生活の中からヒントを得、それを発展させたものである、と言います。今回「菊の会」さまの公演を拝見し、まさに全ての作品にわれわれの日常生活が色濃く表れていると感じました。同時に出演者からは舞踊・芸術に対する心からの愛が感じられ、決して妥協せず、努力を重ねられていることに気付かされました。

公演後の交流会では、当団の宋潔、陳鵬、譚一梅がそれぞれ踊りを披露しました。これらの作品もまた「菊の会」さまから大変ご好評いただき、そのあとの意見交流会では、両団のリーダー及び踊り手が舞踊に対する認識や理解をお互いに発表し合い、大変有意義な時間となりました。

今回の交流会を機に、われわれ両国文化の伝承と発展を担う者同士、今後とも友好な関係を築いていけたらと思います。最後になりますが、今回このような交流の場を設けて下さいました「菊の会」さまに感謝を申し上げますとともに、今後のますますの発展をお祈り申し上げます。

上海歌劇院舞劇団
副院長 吳 潔

両国文化の伝承と 発展を担う者として

2020年公開予定 小泉堯史監督作品

「峠」最後のサムライ

主演の役所広司はじめ松たか子・田中泯・香川京子・佐々木蔵之助・仲代達矢ら豪華キャストが集結し、これまでに1度も映画化されなかったが、大ベストセラーの初映画化。「雨あがる」「阿弥陀堂だより」「博士の愛した数式」等上質な日本映画を世に送り出してきた小泉監督は「私もこの映画に於いて待とは何か、捉えてみたい。自然に、爽やかにそして美しく」と意気込みを明かしている(映画COMより抜粋)



前列中央左:小泉堯史監督、右端:畑聡、菊の会メンバーと撮影後の記念撮影

畑聡が振り付け
菊の会メンバー出演
司馬遼太郎原作「峠」の映画化にあたり、舞踊シーンの振付け・舞踊指導を小泉監督作品「峠の記」に続き畑聡代表が担当、公演メンバーが出演します。

台湾・台南市

「和風文化祭」・「南瀛国際民俗芸術節」



2018年10月14日、台湾台南市で開催された「2018南瀛国際民俗芸術節」・「和風文化祭」に菊の会が初めて参加しました。

「2018南瀛国際民俗芸術節」は2年に一度開催され、日本の代表として菊の会が出演致しました。

「和風文化祭」には台南市政府文化局によると約8000名の来場者が訪れました。

菊の会が踊りの指導を担当
横濱市立みなとみらい本町小学校「学校だより」から
校長 小正 和彦
JICA(独立行政法人国際協力機構)から海外研修員の学校訪問がありました。SDGs(持続可能な開発目標)の「質の高い教育をみんなに」という研修で、来校した開発途上国の教育省庁関係者、教職員11ヶ国の研修参加者に「ソーラン節」を披露しました。(中略)

日本の踊りとともに生き生きとした子ども達の姿に感動していました。

自分達の姿が海外の子ども達のためになる、そのような思いをもって、単なる知識としてではなく、自分事として海外と繋がった貴重な機会になったと思います。

2019年菊の会公演予定 INFORMATION

- ◆『新春を躍る』アトリエ公演
日時: 1月26日(土)・27日(日) 両日 13:00 開演
会場: 菊の会スタジオ(東京都新宿区)
- ◆『古典舞踊研鑽会』アトリエ公演
日程: 2月10日(日)
会場: 菊の会スタジオ(東京都新宿区)
- ◆『躍れ日本の心』音楽町 町制執行50周年記念事業
日時: 2月24日(日) 14:00 開演
会場: 音楽町中央公民館 邑の森ホール(群馬県邑楽町)
- ◆『日本のおどり』
日時: 3月9日(土) 14:00 開演
会場: サンシティ 越谷市民ホール(小ホール)(埼玉県越谷市)
- ◆『第5回 桜おどり』アトリエ公演
日程: 3月21日(木祝)~4月7日(日)(木/金/土/日のみ)
会場: 菊の会スタジオ(東京都新宿区)
- ◆『花に舞う』アトリエ公演
日程: 4月6日(土)・7日(日)
会場: 菊の会スタジオ(東京都新宿区)
- ◆『日本のおどり』
●日程: 5月11日(土)
会場: キラリ☆ふじみ(富士市民文化会館)(埼玉県富士見市)
●日程: 5月19日(日)
会場: 鹿嶋勤労文化会館(茨城県鹿嶋市)

(※予定を変更する場合がございます。何卒ご了承下さいませ。御来場の折、時間と場所をご確認下さいませ。)

舞踊集団 菊の会 事務局 〒161-0031 東京都新宿区西落合 2-21-23 Tel 03-5983-6001 / Fax 03-5983-6002

菊の会

http://www.kikunokai.co.jp/



皆様のご参加をお待ちしております。

**第37回 舞踊集団 菊の会
友の会懇親パーティー**

**[日時] 2019年4月21日(日)
12:00 開宴**

**[会場] ハイアットリージェンシー東京
センチュールーム(地下1階)**

菊の会公演の余韻

ペルー国立劇場
コーディネーター兼プログラマー
マウリスシオ・サラス・
トーレブランカ



前列中央左 マウリスシオン・サラス・トーレブランカ氏

2017年11月、ペルー国立劇場は在ペルー日本国大使館とペルー日系人協会（APJ）の多大な支援と協力を得て、日本の舞踊集団菊の会の初の公演を大劇場において行いました。

国立劇場における菊の会の舞台は、伝統的な日本の文化と地元の人々との感動的な出会いでありました。繊細でしなやかな調和の取れた踊りと、ひとつひとつが誠実であり、巧みな技と経験による踊りが、ステージ上で繰り広げられました。古来からの伝統の担い手として、そして、世界における日本の芸術大使として日系人や一般の観客も「菊の会」のことを、忘れることはできないでしょう。

公演当日は短時間で劇場が満席になりました。また、国立劇場の「観客養成プログラム」に参加している地元の学校の千人以上の子供たちを対象に、教育

を目的とした公演を行い、菊の会の踊りを見た若い観客達は巧みで、色鮮やかな演技に魅了されました。ダンスは、人間の感情や地域社会での生活に最も近い芸術的な表現の一つです。全世界の人々は踊りを通して神を崇拝し、祭りを祝い、人生のサイクルを共にし、各自の世界観を表すのです。このようにして、ダンスの動きは本物で類のないものになります。菊の会は私たちをその本質に近づけ、地理的に遠く、しかし、文化的に近い人々の感情を、「動き・儀式・ユーモア・音楽」を通じて知ることができるにしました。

菊の会のメンバー、クリエーター、ディレクター、そして、菊の会の訪問を可能にした関係者の皆様に心から感謝致します。



ペルー国立劇場

長野県川上村で二回目の菊の会公演
地域文化向上にひと役!!

「佐渡おけさ」



左端から川上芳夫副村長、畑聡代表、藤原忠彦村長、中山順子、右端は本公演開催に御尽力頂いた篠塚裕氏

昨年引き続き文化事業として川上村並びに川上村教育委員会の主催事業として去る11月23日2度目となる菊の会公演が開催されました。

川上村は千曲川の最上流部に位置する日本有数のレタスの産地として有名で宇宙飛行士の由井亀美也氏の出身地としても知られています。

公演当日は藤原村長、川上副村長はじめ村民の皆様、松本市、佐久市、生坂村からも御来場下さいました。

終了後、藤原村長は「大変に素晴らしい公演でした。村民からもう一度観たいと多数声が寄せられています。」と語って下さり、地域文化向上に菊の会の益々のご活躍を期待しているとお励ましを頂きました。



「柿しほり」

待望の勝央文化ホールでの公演!

舞踊集団菊の会公演

「日本のおどり錦秋に舞う」

岡山県勝央町
町長 水嶋淳治

「錦秋」という言葉が、まさにふさわしい秋の一日、舞踊集団菊の会の公演が、本町文化ホールにおいて行われました。平成3年以来、2度目の公演となります。

岡山県勝央町は、県の北東部に位置し、坂田金時(幼名金太郎)の終焉の地として知られ、工業と農業が調和した町として進展しています。また、町の中心部の勝間田は、出雲街道の宿場町として栄え、街道沿いにはその名残を今もとどめています。

例えば、今から30数年前に「勝央音頭」と「勝央ヤマトサ節」の振付を、菊の会創設者である故畑道代先生



公演終了後、水嶋町長と記念撮影

に行っていたとき、菊の会様とのご縁をいただきました。当時は、その指導のため遠路はるばる何度も足をお運びいただいたと記憶しております。

今回、平成16年に開館した文化ホールで、ホール初の本格的な舞踊公演を開催することができ、私も感慨入であります。

畑先生に託していただいた舞踊の種は、大きく育ち、本町の芸術文化活動を代表する舞踊として、脈々と郷土芸能として地域に息づいております。保存会も結成され、はや30有年となりますが、現在40名が活動し、地域のイベント等に積極的に参加しています。



「加賀ハイヤ節」

その会員にとりまして今回の公演は、大きな刺激になりました。菊の会は、日本各地に伝わる伝統的な踊りを舞台化し、日本文化を広く国内外に知らしめるとともに、狂言などの古典を舞踊で表現されるなど日本文化の伝統美を追求されています。その姿勢には、私も深く感銘をしております。

自主事業では初めての本格的な舞踊公演に、お客様は勿論、私も舞踊には造詣が深くはございませんが、舞台いっぱいに繰り広げられる躍動感あふれる美しい舞踊に時のたつのも忘れて、見入ってしまいました。会場でご覧いただいたお客様も、口を揃えて素晴らしい公演だったとおっしゃっていました。本当に素晴らしい舞台公演でした。

今回は、一般町民を対象にした公演でございましたが、本町の子どもたちにも是非、日本の伝統文化の美しさを体験させてみたいと強く思った次第であります。近い将来、この勝央の地で、菊の会の公演が出来ますことを強く願っております。

町制施行50周年記念・中央公民館開館記念
菊の会邑楽町公演に寄せて群馬県邑楽町
町長 金子正一

「北海の海」

私が初めて菊の会の皆さんの公演を拝見したのは、同じ群馬県邑楽郡内にある大泉町でのことでした。日本舞踊には余りなじみのない私ですが、菊の会の皆さんの、ときには優美に、ときには勇壮に、そして随所に上品なユーモアを交えて展開される踊りの数々に、すっかり魅了され、なんとか邑楽町の町民の皆さんにもこのすばらしい踊りの数々を観ていただくことはできないものかと思っていました。

折しも、今年度は邑楽町が町制を施行して50周年の記念すべき年です。

また、会場となる邑楽町中央公民館の森ホールは、邑楽町で初めての本格的なホールとして今年度オープンしたばかりの施設であり、町としてもこの施設を利用して町民の皆さんが優れた芸術文化を鑑賞する機会を模索してまいりました。

そんな折、菊の会の畑代表とお目にかかる機会があり、ご相談の結果、菊の会様と邑楽町の共催事業として、平成31年2月に邑の森ホールで上演できることになりました。

今回の公演を契機に、町民の皆さんが菊の会の存在とその素晴らしさを

知ってくださること。逆に遠方から訪れる菊の会の熱心なファンの皆さんが邑の森ホールと邑楽町の魅力を知って、たびたび訪問してくださること。そんなことが共に実現できれば素晴らしいことと願っております。そして、菊の会の公演を観た少年少女の中から、踊りの世界を志し、日本のよき伝統と芸術の担い手として成長していくくれる子が一人でも誕生してくれるなら、これに勝る喜びはありません。



「身替座禅」